

教科名	国語		科目名	国語総合		単位数	6 単位			
対象学年	1年特進		履修形態		必修	科目コード				
科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。									
学習内容の概要	<p>A 話すこと・聞くこと (ア) 話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。(イ) 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。(ウ) 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。エ話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p> <p>B 書くこと (ア) 相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。(イ) 論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。(ウ) 対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を考えて書くこと。(エ) 優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p> <p>C 読むこと (ア) 文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。(イ) 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。(ウ) 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。(エ) 文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。(オ) 幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。</p>									
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		話す・聞く能力		書く能力		読む能力		知識・理解	
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。		目的や場に応じて効果的に話したり聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめ、深めている。		相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。		文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。		伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。	
評価方法	・行動の観察(学習活動への参加姿勢や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート)		・行動の観察(学習活動における発言内容や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート)		・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート、レポート、感想文などの作成した文章) ・定期考査		・行動の観察(学習活動における発言内容や態度) ・記述の確認(ノート、プリント等) ・定期考査		・行動の観察(学習活動における発言内容) ・記述の確認(ノート、プリント等) ・定期考査	
教科書、教材など	数研出版『改訂版 国語総合 現代文編／古典編』、『国語総合準拠ワーク 現代文編／古典編』、新国語便覧 国語総合ノート古文編／漢文編、体系古典文法、体系漢文、新全訳古語辞典、常用漢字ダブルクリア									
授業形態	一斉授業									

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価	
1	4	【現代文】随想(一) 評論(一)	知の体力 水の東西	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体例から問題提起に至る文章構成をとらえる。</li> <li>・文章の具体例と抽象的表現を的確にとらえる。</li> <li>・文章の内容を叙述に即して読み取り、要約したり詳述したりする。</li> <li>・文章を表現に即して読み、「児」や「僧」の心情や人物像をとらえる。</li> <li>・文章に描かれた人物、心情を表現に即して読み味わう。</li> <li>・文章を表現に即して読み、「良秀」の心情や人物像をとらえる。</li> <li>・文語のきまり(用言)や語句の意味を理解する。</li> <li>・目的や場に応じて、効果的に話す。</li> <li>・「わらしべ長者」の一般的な解釈と、経済学的解釈を理解する。</li> <li>・文章の内容を要約したり詳述したりする。</li> <li>・訓読のきまりについて理解する。</li> <li>・国語における言葉の成り立ちを理解する。</li> <li>・我が国の文化と外国文化との関係に気付く。</li> <li>・筆者の独自性のある表現から、描かれた情景や筆者の心情・感覚を理解する。</li> <li>・具体例と筆者の抽象的見解を的確にとらえている。</li> <li>・文章の構成や展開を確かめ、筆者の意図をとらえる。</li> <li>・文語のきまり(助動詞や、係り結び)を理解している。</li> <li>・文章の形態や文体、語句などを工夫して書く。</li> <li>・文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わう。</li> <li>・我が国の文化と外国文化との関係について気付き、関心を広げる。</li> <li>・短文の特色に気付き、伝統的な言語文化に対する関心を広げる。</li> <li>・現状分析と結論部分とを的確にとらえ、筆者の考えを読み取る。</li> <li>・歌物語における和歌の修辞や、語句の用い方について理解する。</li> <li>・「私」が至った認識から「生命」について自分の考えを深める。</li> <li>・表現の技法や文体など筆者の工夫をとらえて読む。</li> <li>・漢詩の形式や構成・語句・語彙の構造的な仕組みを理解する。</li> </ul>	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価	
	5	【古典】説話 中間考査	ネットが崩す公私の境 宇治拾遺物語 児のそら寝	8			
	6	【現代文】小説(一) 【古典(古文)】説話	羅生門 宇治拾遺物語 絵仏師良秀 沙石集 孝孫・用言	10			
	7	表現1 期末考査	スピーチ	2			
	2	8	【現代文】評論(二) 評論(三)	「わらしべ長者」の経済学 時間と自由の関係について			8
		9	【古典(漢文)】入門 故事	入門一・入門二 漁夫之利・矛盾・狐借虎威 朝三暮四			8
		10	中間考査				12
		11	【現代文】随想(二) 評論(四)	匂いは、いつも言葉の奥の何かを 「間」の感覚			8
		12	【古典(古文)】 随筆(一)	徒然草 つれづれなるままに ／友とするに／神無月のころ			10
		12	期末考査				8
	3	1	表現3・4 【現代文】小説(二)	手紙・意見文 富嶽百景			2
		1	【古典(漢文)】史伝	管鮑之交			4
2		【現代文】短歌と俳句 評論(五)	短歌 動的平衡の回復	4			
2		【古典(古文)】 学年末考査	伊勢物語 芥川・東下り	8			
3		【現代文】小説(三)	城の崎にて	12			
3		【古典(古文)】日記 【古典(漢文)】唐詩	土佐日記 門出 絶句・律詩	6			
備考:				合計	210		

教科名	国語	科目名	国語総合	単位数	4 単位
対象学年	1年総合・調理	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力を伸ばし、心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。				
学習内容の概要	<p>A 話すこと・聞くこと (ア)話題について様々な角度から検討して自分の考えをもち、根拠を明確にするなど論理の構成や展開を工夫して意見を述べること。(イ)目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。(ウ)課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重し、表現の仕方や進行の仕方などを工夫して話し合うこと。エ話したり聞いたり話し合ったりしたことの内容や表現の仕方について自己評価や相互評価を行い、自分の話し方や言葉遣いに役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p> <p>B 書くこと (ア)相手や目的に応じて題材を選び、文章の形態や文体、語句などを工夫して書くこと。(イ)論理の構成や展開を工夫し、論拠に基づいて自分の考えを文章にまとめること。(ウ)対象を的確に説明したり描写したりするなど、適切な表現の仕方を選んで書くこと。(エ)優れた表現に接してその条件を考えたり、書いた文章について自己評価や相互評価を行ったりして、自分の表現に役立てるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。</p> <p>C 読むこと (ア)文章の内容や形態に応じた表現の特色に注意して読むこと。(イ)文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約や詳述をしたりすること。(ウ)文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。(エ)文章の構成や展開を確かめ、内容や表現の仕方について評価したり、書き手の意図をとらえたりすること。(オ)幅広く本や文章を読み、情報を得て用いたり、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにしたりすること。</p>				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話したり聞き取ったり、話し合ったりして、自分の考えをまとめて、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・行動の観察(学習活動への参加姿勢や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート)	・行動の観察(学習活動における発言内容や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート)	・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート、レポート・感想文などの作成した文章) ・定期考査	・行動の観察(学習活動における発言内容や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート) ・定期考査	・行動の観察(学習活動における発言内容) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート) ・定期考査
教科書、教材など	大修館書店『新編国語総合 改訂版』、準拠学習課題ノート 常用漢字ダブルクリア、新国語便覧				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価	
1	4	感動する心	ワンダフル・プラネット メッセージ探しの旅	8 8	・「センス・オブ・ワンダー」を心を持つことの大切さを理解する。 ・筆者の主張を読み取り、感受性を豊かにし感動する心を育てることの大切さを理解する。	定期考査の成績・提出課題・感想文・小テストなどを総合的に評価	
	5	小説を楽しむ <u>中間考査</u>	子供たちの晩餐 テスト・テスト直し・解説	8 2	・現代小説を読み、作品の構成・展開を正しくとらえている。		
	6		人生は「動詞」で変わる	7	・日本語における慣用的な表現に関心をもち、言葉が生き方のスタイルと結びつくという筆者の考えを理解する。		
	7	日本語を考える	漢字の性格	8	・漢字の特色及び日本語における漢字の働きを知るとともに、漢字を身につけることの大切さを理解する。		
	2	8	小説を味わう <u>期末考査</u>	テスト・テスト直し・解説 羅生門	2 12		・小説を読み味わい、そこに描かれた人間の生き方についての考えを深める。
		9		古典に親しむ 漢文のとびら	8 6		・古典の言葉に慣れ正しく音読する。 ・漢文に親しみ、漢文を学ぶ意義を理解する。
		10	文化のことは	訓読のきまり 訓読に親しむ テスト・テスト直し・解説	6 6 2		・格言を読んで、ものの見方、考え方を広げたり深めたりする。 ・漢文を音読し、漢文訓読に親しむ。
11		自然に目を向けて	水の東西 季節の言葉と出会う	8 7	・文章の論の進め方の特色をつかむ。 ・日本の季節を表す言葉の理解を通して、日本人の季節に対する感性について関心を深める。		
12		詩歌との出会い <u>期末考査</u>	ペンギンはなぜ一列になって歩くのか? テスト・テスト直し・解説	7 2	・筆者の考えを、叙述に即して的確に読み取り、自然に対する関心を広げる。		
3	1	いのちと平和	はる	1	・作品を味わい、人生や自然に対する見方、感じ方、考え方を深める。		
	2	社会に生きる	短歌/俳句 心が生まれた惑星 コルベ神父	1 7 8	・短歌、俳句に親しみ、形式や表現の特色を理解する。 ・叙述に即して文章の内容を的確に読み取る。 ・構成や叙述の特色に注意し、人物の生き方、筆者の関心の持ち方について理解を深める。		
	3	読書を広げる <u>学年末考査</u>	何のために「働く」のか テスト・テスト直し・解説 夢十夜	7 2 7	・筆者の考えを叙述に即して的確に読み取り、働くことについての理解を深める。 ・象徴性の高い小説に取り組み、その寓意を読み深める。		
備考:		合計	140				

教科名	地歴公民	科目名	世界史A	単位数	2単位
対象学年	第1学年	履修形態	選択必修	科目コード	
科目の目標	(1) 我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての理解と認識を深める。 (2) 基礎的事項の理解を踏まえ、国際社会に生きる民主的、平和的國家の一員として必要な自覚と資質を養う。				
学習内容の概要	基本的事項の定着をはかりながら、地理的条件や日本の歴史と関連付けて世界史の流れを理解させる。作業的な学習を取り入れ、生徒自身が主体となり自ら考える態度を養い、歴史的思考力の向上をはかる。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に取り組もうとしているか。	近現代史の理解をもとに、人類の課題を世界史的視野に立って多角的に考察できているか。	諸資料を活用し、歴史的対象を適切に表現する態度が身に付いているか。	前近代史に基づき、近現代史を理解するのに必要な基礎知識が身に付いているか。	
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察および、ノートの状態、課題の提出を主として評価する。	定期テスト・小テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題および定期テストにより評価する。	定期テスト・小テストおよび課題により評価する。	
教科書、教材など	「世界史A」(実教出版) 「世界史A演習ノート」(実教出版)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法			
1	4	第1部 ユーラシア諸文明と交流	序章 文明のはじまり	8		観察 発表 課題 ノート 考査			
	5		第1章 ユーラシア諸文明の特質						
	6	<u>中間考査</u>							
	7						第2章 ユーラシアの交流		
	9						第3章 一体化に向かう世界		
	8	第2部 むすびつく世界と日本	第4章 アジアの繁栄				1 アジアの繁栄 2 世界経済体制の形成	9	観察 発表 課題 ノート 考査
	9		<u>中間考査</u>						
10	第5章 19世紀の世界の一体化と日本	1 産業革命と工業化社会の成立 2 アメリカ独立戦争 3 フランス革命とナポレオン戦争 4 ウィーン体制とその崩壊							
11	第3部 近代のヨーロッパ・アメリカと世界の変動	5 ユーロッパ国民国家の発展 6 アジア・アフリカ・ラテンアメリカの変動 7 東アジアの変容と日本の近代化							
12		<u>期末考査</u>							
1	第4部 地球社会と日本			第6章 二つの世界大戦	1 激変する世界と帝国主義 2 第一次世界大戦とロシア革命 3 戦間期のヨーロッパとアメリカ 4 民族運動の高まり 5 第二次世界大戦				
2				<u>学年末考査</u>					
3	第7章 第二次世界大戦後の世界と日本 第8章 現代の世界	8 1 冷たい戦争 2 アジア・アフリカ諸国の独立と混乱 3 多極化の進展と冷戦体制の崩壊	考査						
備考:			合計	70					

教科名		地理歴史		科目名		地理A		単位数	2単位	
対象学年		第1学年特進		履修形態		必修		科目コード		
科目の目標		現代世界の地理的な諸課題を、地域性や歴史的背景、日常生活との関連を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる現代人としての自覚と資質を養う。								
学習内容の概要		<p>(1) 現代世界の特色と地理的技能 現代世界の地域性や動向を地球儀や地図の活用、観察や調査、統計、画像、文献など地理的情報の収集、選択、処理など作業的、体験的学習を通じてとらえ、諸資料の地理的情報化や地図化などの地理的技能を身につける。</p> <p>(2) 地域性を踏まえてとらえる現代世界の課題 異文化理解及び地理的課題の取組みに重点を置いて、それらの地域性を踏まえて追求し、現代世界の地理的認識を深め、地理的な見方、考え方を身につける。</p>								
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)		関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	地理的内容、現代社会的な内容の因果関係など、現代世界の諸課題に対する関心を持ち、主体的・意欲的に学習活動をしている。				
評価方法		授業中の取り組み状態や、発問に対する答え方。ノート の状況、課題の提出を主として評価する。	テスト、課題、授業中の発問に対する受け答えにより判断する。	因果関係を追究しようとする姿勢や、授業中の発問に対する答え方や、答えを探するなど、答えを導き出そうとする。	ワークノート、プリントの作成 諸課題に関する諸資料を見る 学・収集し、吟味・考察してその 成果を適切に年表・地図などに 表現する。	世界の地理と現代の諸課題に関する相互の因果関係を公正に読み取る能力と近現代史を座標軸となる知識を踏まえて大観的に捉えることができる。				
教科書、教材など		「高等学校 新地理A」(帝国書院) 「帝国書院編集部編 新詳高等地図」(帝国書院) 「新編 地理資料2020(とうほう)」								
授業形態		一斉授業								
年間授業計画										
学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法				
1	4	1学期 <u>中間テスト</u>	1章 地球儀や地図からとらえる世界 1節 地球上の位置と国家 2節 グローバル化が進む世界	15	○緯度、経度、自転、公転など、基本的なことを理解するとともに、世界各地の気候や地形と、生活、文化を考察する。	【関心・意欲・態度】授業への参加度やノート作成 【資料活用】年表や地図の作成 【思考・判断・表現】レポートの作成・発表 【知識・理解】小テストや定期考査				
			2章 人間生活を取り巻く環境 1節 人々の生活と地形 2節 人々の生活と気候 3節 人々の生活と産業・文化				16	○世界の地形を理解するとともに、人々の生活がどのように結びついているかを考察する。 ○産業や文化が、人々の生活とどのように関わっているかを考察する。		
	5	1学期 <u>期末テスト</u>	3章 世界の諸地域の生活・文化 1節 中国の生活・文化 2節 韓国の生活・文化 3節 東南アジアの生活・文化 4節 南アジアの生活・文化	26	○世界各地、地域の人々の生活・文化の特色や動向を考察する視点や方法を習得する。 ○世界の地域が、どのように日本と関わっているのかという点や、日本との共通性・異質性を地理的に考察する。					
			5節 中央アジア・西アジア・北アフリカの生活・文化 6節 サハラ以南のアフリカの生活・文化 7節 ヨーロッパの生活・文化 8節 ロシアの生活・文化 9節 アングロアメリカの生活・文化				11	○世界各地を地域ごとに考察し、気候や歴史、産業、文化などを理解する。 ○地域ごとに歴史を学ぶだけでなく、気候や地形、宗教や言語などの文化が、どのように関わっているかを考察する。 ○世界の地域と、他地域との関わりを考察するとともに、日本との関わりや、生活、文化に影響していることがないかを理解する。		
	6	2学期 <u>中間テスト</u>	10節 ラテンアメリカの生活・文化 11節 オーストラリアの生活・文化	13	○人間が生活(活動)する中で、地球的課題である環境問題となっている因果関係を考察する。また、その環境問題の現状や課題、解決策を理解する。 ○人口問題や食料問題において、地域ごとに原因が異なったり、現状や対策、解決策などが異なったりすることを理解する。					
			4章 地球的課題と私たち 1節 複雑にからみ合う地球的課題 2節 世界の環境問題 3節 世界の資源・エネルギー問題 4節 世界の人口問題 5節 世界の食料問題 6節 世界の都市・居住問題				3	3学期 <u>学年末考査</u>		
	7	2学期 <u>期末テスト</u>								
			8	2学期 <u>中間テスト</u>						
	9	2学期 <u>期末テスト</u>								
			10	2学期 <u>期末テスト</u>						
	11	2学期 <u>期末テスト</u>								
			12	2学期 <u>期末テスト</u>						
1	3学期 <u>学年末考査</u>									
		2	3学期 <u>学年末考査</u>							
3	3学期 <u>学年末考査</u>									
		備考:		合計		70				

教科名	公民	科目名	現代社会	単位数	2 単位
対象学年	第1学年総合	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	人間の尊重と科学的な探究の精神に基づいて、広い視野に立って、現代の社会と人間についての理解を深めさせ、現代社会の基本的な問題について主体的に考え公正に判断するとともに自ら人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。				
学習内容の概要	(1) 現代に生きる私たちの課題 現代社会に対する関心を高めるとともに、課題を設けて倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から主体的に追求する力を身に付ける。 (2) 現代の社会と人間としての在り方生き方 現代社会について社会的、経済的、政治的及び国際的な視点から理解させるとともに、青年の生き方、経済活動の在り方、民主社会の倫理、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方などについて考察する。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	現代社会の諸問題を取り上げ課題を設けて、倫理、社会、文化、政治、経済など様々な観点から追求しようとする。	現代社会を様々な角度からとらえ、青年、経済人、権者、国際社会における日本人など様々な立場から人間としての在り方生き方を考えることができる。	現代社会の諸問題に対して調査、分析を通して社会的事象を総合的にとらえようとする。	広い視野に立ち、現代の社会基本的な問題について主体的に考え公正に判断する良識ある公民としての資質を身に付けている。	
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察および、ノートの状況、課題の提出を主として評価する。	テストおよび課題により評価する。	授業での発問に対する答え方、課題およびテストにより評価する。	テストおよび課題により評価する。	
教科書、教材など	「改訂版 高等学校現代社会」(数研出版) 「新版 テーマ別資料 クローズアップ現代社会2020」(第一学習社) 「改訂版 高等学校現代社会 整理ノート」(数研出版)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法	
1	4 5	第1編 私たちの生きる社会 <u>中間考査</u>	1章 地球環境問題	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>地球環境問題や資源・エネルギー問題といった国家を越えて地球規模で取り組む必要のある問題のほか、科学技術の進歩に伴い生じた問題を通して、現在の生活を取り巻く諸問題について考察する</li> </ul>	観察 発表 課題 ノート 考査	
			2章 資源・エネルギー問題	6			
	3章 生命をめぐる問題	7					
	4章 情報をめぐる問題	6					
	7	<u>期末考査</u>					
2	8 9	第2編 現代社会と人間としてのあり方生き方 <u>中間考査</u>	1章 青年期と自己の形成	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>青年期の発達課題を自己の課題として認識し、生涯における青年期の意義と自己形成の課題とその克服について考察する。</li> <li>東西及び日本の思想を通じてよく生きること、他者との関係のなかで生きることの大切さを考察する。</li> </ul>	観察 発表 ノート 考査	
			①青年としてのあり方・生き方	7			
	②先人の生き方・考え方	7					
	③日本人としての自覚	7					
	11	<u>期末考査</u>	2章 現代の民主政治と政治参加の意義	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法の基本原理と政治参加の意義を理解し、民主社会において自ら生きる倫理について自覚を深める。</li> <li>国会・内閣・裁判所の各役割や権限、課題について理解し、民主政治における個人と国家について考える。</li> <li>世論形成及び政治参加の意義を認識し、政治参加や国民の重要な権利であると同時に義務であることに理解を深める。</li> </ul>	観察 発表 課題 ノート 考査	
①民主主義の基本原理	7						
②日本国憲法と基本的人権	7						
③日本の政治機構	6						
3	1 2 3	<u>学年末考査</u>	④政治参加と民主政治の課題	6			
備考:			合計	70			105

教科名	数学		科目名	数学 I		単位数	3単位
対象学年	第1学年特進		履修形態	必修	科目コード		
科目の目標	数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						
学習内容の概要	第1章 数と式 第4章 図形と計量		第2章 集合と命題 第5章 データの分析		第3章 2次関数		
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解
	数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析における考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。		数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。		数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。		数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習、復習の状況、課題の提出を主として評価する		テスト及び課題により総合的に評価する		テスト及び課題により総合的に評価する		テスト及び課題により総合的に評価する
教科書、教材など	教科書 改訂版 高等学校 数学 I (数研出版) 問題書 4プロセス数学 I +A (数研出版) 練習ドリル数学 I 標準編 (数研出版) 参考書 Focus Gold 数学 I +A (啓林館)						
授業形態	一斉授業						

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法		
1	4	第1章 数と式	第1節 数と式の計算	20	数を実数まで拡張する意義を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	<b>考查</b> <b>授業取組</b> <b>課題</b> ※以下同じ		
	5		第2節 1次不等式					
	6	第2章 集合と命題	集合と命題	12	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。			
	7	第3章 2次関数	第1節 2次関数のグラフ	30	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。			
	8		第2節 2次関数の値の変化					
	9	第4章 図形と計量	第1節 三角比	30	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。			
	10		第2節 三角形への応用					
	11	第5章 データの分析	データの分析	13	統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。			
	12							
	備考：			合計	105			

教科名	数学		科目名	数学Ⅱ（特進）	単位数	1単位
対象学年	第1学年特進	履修形態	必修	科目コード		
科目の目標	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる					
学習内容の概要	第1章 式と証明		第2章 複素数と方程式			
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に興味をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考えに基づいて判断しようとする。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けていく。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能技術を身に付けている。	いろいろな式、図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。		
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習、復習の状況、課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する		
教科書、教材など	教科書 高等学校数学Ⅱ（数研出版）、問題書 4プロセス数学Ⅱ+B（数研出版）、参考書 Focus Gold 数学Ⅱ+B（啓林館）					
授業形態	一斉授業					

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
3	1	第1章 式と証明	第1節 式と計算	9	整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに、等式や不等式が成り立つことを証明できるようにする。  方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	考查 授業取組 課題 ※以下同じ
			第2節 等式・不等式の証明	6		
	2	第2章 複素数と方程式	第1節 複素数と2次方程式の解	8		
			第2節 高次方程式	4		
3		1学期中間考査	問題演習	8		
備考：			合計	35		

教科名	数学		科目名	数学 I		単位数	3 単位
対象学年	第 1 学年総合調理		履修形態	必修	科目コード		
科目の目標	数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。						
学習内容の概要	第 1 章 数と式 第 4 章 集合と命題		第 2 章 2 次関数 第 5 章 データの分析		第 3 章 図形と計量		
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解
	数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析における考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。		数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析において、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り、多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。		数と式、2次関数、図形と計量、集合と命題及びデータの分析において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。		数と式、2次関数、図形と計量の分析における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、知識を身に付けている。
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習、復習の状況、課題の提出を主として評価する		テスト及び課題により総合的に評価する		テスト及び課題により総合的に評価する		テスト及び課題により総合的に評価する
教科書、教材など	教科書 改訂版 新高校の数学 I (数研出版) 副教材 改訂版 新高校学習ノート 数学 I (数研出版)						
授業形態	一斉授業						

年 間 授 業 計 画

学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法	
1	4	第 1 章 数と式	第 1 節 数と式の計算	20	数を実数まで拡張する意義を理解できるようにする。また、式を多面的にみたり処理したりするとともに、1次不等式を事象の考察に活用できるようにする。	<b>考查</b> <b>授業取組</b> <b>課題</b> ※以下同じ	
	5		第 2 節 1次不等式				
	6						
			1学期中間考査				
	7	第 2 章 2次関数	第 1 節 2次関数のグラフ	30	2次関数とそのグラフについて理解し、2次関数を用いて数量の関係や変化を表現することの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
	8		第 2 節 2次関数の値の変化				
			1学期期末考査				
	9						
	10	第 3 章 図形と計量	第 1 節 三角比	30	三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比を用いた計量の考えの有用性を認識するとともに、それらを事象の考察に活用できるようにする。		
	11		第 2 節 三角形への応用				
			2学期中間考査				
	12	第 4 章 集合と命題	集合と命題	12	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。		
1							
		2学期期末考査					
2	第 5 章 データの分析	データの分析	13	統計の基本的な考えを理解するとともに、それを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。			
3							
		学年末考査					
備考：			合計	105			

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2単位
対象学年	第1学年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	場合の数と確率, 図形の性質または整数の性質について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を養い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第1章 場合の数と確率	第2章 図形の性質	第3章 整数の性質		
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	場合の数と確率, 図形の性質または整数の性質における考え方に興味をもつとともに, 数学のよさを認識し, それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。	場合の数と確率, 図形の性質または整数の性質において, 事象を数学的に考察し表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率, 図形の性質または整数の性質において, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている	場合の数と確率, 図形の性質または整数の性質における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 基礎的な知識を身に付けている。	
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習, 復習の状況, 課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	
教科書, 教材など	教科書 改訂版 高等学校 数学A (数研出版) 問題書 4プロセス数学 I + A (数研出版) 練習ドリル数学A標準編 (数研出版) 参考書 Focus Gold 数学 I + A (啓林館)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法	
1	4	第1章 場合の数と確率	第1節 順列・組合せ	25	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め, それらを事象の考察に活用できるようにする。	調査 授業取組 課題 ※以下同じ	
	5						
	6						1学期中間調査
	7	第2章 図形の性質	第2節 確率	25	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め, それらを事象の考察に活用できるようにする。		
	8						1学期期末調査
	9						
	10	第3章 整数の性質	第1節 平面図形	20	整数の性質についての理解を深め, それを事象の考察に活用できるようにする。		
	11						2学期中間調査
	12						2学期期末調査
	1	1	第3章 整数の性質	整数の性質	20		整数の性質についての理解を深め, それを事象の考察に活用できるようにする。
	2	2					
	3	3					学年末調査
備考:			合計	70			

教科名	数学	科目名	数学A	単位数	2単位
対象学年	1年総合	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	場合の数と確率, 図形の性質または整数の性質について理解させ, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を養い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。				
学習内容の概要	第1章 場合の数と確率	第2章 図形の性質	第3章 整数の性質		
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	場合の数と確率, 図形の性質または整数の性質における考え方に興味をもつとともに, 数学のよさを認識し, それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基いて判断しようとする。	場合の数と確率, 図形の性質または整数の性質において, 事象を数学的に表現したり, 思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して, 数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率, 図形の性質または整数の性質において, 事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている	場合の数と確率, 図形の性質または整数の性質における基本的な概念, 原理・法則などを体系的に理解し, 基礎的な知識を身に付けている。	
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察及び予習, 復習の状況, 課題の提出を主として評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	テスト及び課題により総合的に評価する	
教科書, 教材など	教科書 改訂版 新高校の数学A (数研出版) 副教材 改訂版 新高校学習ノート 数学A (数研出版)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法	
1	4	第1章 場合の数と確率	第1節 順列・組合せ	25	場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め, それらを事象の考察に活用できるようにする。	調査 授業取組 課題 ※以下同じ	
	5						
	6						1学期中間調査
	7	1学期期末調査	第2節 確率	25	平面図形や空間図形の性質についての理解を深め, それらを事象の考察に活用できるようにする。		
	8	第2章 図形の性質	第1節 平面図形				
	9						
	10	2学期中間調査	第2節 空間図形	20	整数の性質についての理解を深め, それを事象の考察に活用できるようにする。		
	11	第3章 整数の性質	整数の性質				
	12						2学期期末調査
	1	学年末調査					
	2						
	3						
備考:			合計	70			

教科名	理科	科目名	物理基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	日常生活と社会との関連を図りながら物理の運動と様々なエネルギーへの関心を高め、目的意識を持って観察、実験を行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>物体の運動とエネルギー</li> <li>さまざまな物理現象とエネルギー</li> </ul>				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的、論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法	授業への取り組み 板書、発表 意思表示	テスト 課題	観察・実験への取り組み 実験レポート	テスト 課題	
教科書、教材など	「改訂 物理基礎」(東京書籍)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	・運動の表し方	<ul style="list-style-type: none"> <li>速さと等速直線運動</li> <li>直線運動の加速度</li> <li>落体の運動</li> <li>力とつり合い</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>運動を変位-時間のグラフや速度-時間のグラフで表し、変位や速度などの物体の運動の基本的な表し方について理解する。また、合成速度や相対速度について理解する。また、加速度について理解し、グラフや式を使って物体の運動を分析できるようになる。</li> </ul>	活動 実験 レポート 板書 発表 宿題 考査 の成 績を 総合 して 評価
	5	・さまざまな力とそのはたらき		6	<ul style="list-style-type: none"> <li>物体にはたらく様々な力を見抜いてベクトルで表す方法を身に付け、それらの力がつり合う条件を見いだせるようになる。また、力の合成や分解をベクトルで扱えるようになる。</li> </ul>	
	6	・運動の法則 ・さまざまな運動とはたらく力		8	<ul style="list-style-type: none"> <li>慣性の法則、運動の第二法則、作用反作用の法則について理解する。</li> <li>物体が空中を落下する際の運動の特徴、及び物体にはたらく力と運動の関係について理解し、鉛直の落下運動、水平投射、斜方投射について式を使って扱えるようになる。また、摩擦力、及び液体や気体から受ける力(圧力、浮力、抵抗力)について理解し、それらがはたらくときの物体の運動を分析できるようになる。</li> </ul>	
2	7	・力学的エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事</li> <li>運動エネルギーと位置エネルギー</li> <li>力学的エネルギー保存の法則</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>仕事の定義、及び仕事の原理と仕事率について理解する。</li> <li>仕事をする能力としての位置エネルギーと運動エネルギーの表し方について理解する。</li> <li>力学的エネルギー保存の法則を用いていろいろな運動を分析できるようになる。</li> </ul>	活動 実験 レポート 板書 発表 宿題 考査 の成 績を 総合 して 評価
	8	・熱	<ul style="list-style-type: none"> <li>熱と温度</li> <li>熱の利用</li> </ul>	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>原子や分子の熱運動と温度との関係を定性的に理解する。さらに、物質の三態変化、絶対温度、及び潜熱(融解熱、蒸発熱)について理解する。</li> <li>熱量、熱容量、比熱、及び熱量の保存について理解し、熱を定量的に扱えるようになる。</li> <li>仕事と熱の変換、内部エネルギー、及び熱力学第1法則について学び、さらに、熱機関とその熱効率、及び熱現象の不可逆性について学び、エネルギーの有効利用についての理解を深める。</li> </ul>	
	9	・波	<ul style="list-style-type: none"> <li>波の性質</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>波の基本的な性質を理解し、波の波長、振動数、波の伝わる速さなどを量的に扱えるようになる。また、横波と縦波の違いを理解する。さらに、波の伝わり方について、波の速さ、波長、周期や振動数の量的関係を扱えるようになる。</li> </ul>	
3	10	・電気と磁気	<ul style="list-style-type: none"> <li>音と振動</li> <li>電流と電気抵抗</li> </ul>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>波の独立性、重ね合わせの原理、反射について観察や作図を通して学び、定常波ができるしくみについて理解する。</li> <li>うなり、固有振動、共振、共鳴などについて理解する。</li> <li>抵抗の違いを抵抗率で表せることを理解する。また、導体、半導体、絶縁体に区分できることを理解する。さらに、合成抵抗を求めることができるようになる。</li> </ul>	活動 実験 レポート 板書 発表 宿題 考査 の成 績を 総合 して 評価
	11			8	<ul style="list-style-type: none"> <li>電流のエネルギーについて、電力と電力量を計算で求められるようになる。</li> <li>右ねじの法則を学び、電流による磁界について理解する。</li> <li>電流が磁界から受ける力について学び、モーターの原理を理解する。さらに、モーターと発電機についてエネルギー変換の立場から理解する。</li> </ul>	
	12	・エネルギーとその利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>さまざまなエネルギー</li> <li>エネルギーの利用</li> </ul>	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>交流と電磁波</li> <li>電磁波について学び、現代の社会生活に利用されていることを知る。</li> <li>射線及び原子力の利用とそれに伴うリスクについて、理解を深める。</li> <li>近い将来に直面するであろうエネルギー問題について関心を持ち、その解決のために必要とされる基本的な科学知識や態度を身につける。</li> </ul>	
備考:	合計		70			

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	生物学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	自然の事物・現象に関心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事実を実証的・論理的に考えたり、分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法	・授業への取り組み ・板書・発表 ・意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題	
教科書、教材など	生基 318 「改訂版 生物基礎」 「セミナー生物基礎+生物」第一学習社				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性  <u>中間考査</u>	地球上のさまざまな環境には、多種多様な生物が生息しており、生物は多様であること、生物の共通の祖先、多様化のこと、生物が共通にもつ特徴、細胞には原核細胞と真核細胞があることについて理解する。	7	真核細胞において、核・細胞膜・細胞質基質・ミトコンドリア・葉緑体・液胞・細胞壁の構造と機能の概要。 代謝には同化と異化がある、ATPが関わっている。酵素の基本的な特徴 光合成は、光エネルギーによって有機物を合成する過程である。 呼吸は、ATPがつくられる過程であること。共生説の考え方。	活動・実験レポート・板書発表・宿題考査の成績を総合して評価
	5	2. 細胞とエネルギー		8		
	6	<u>期末考査</u>				
2	7	第2章 遺伝子とその働き 1. 遺伝子の本体の構造	ヌクレオチドの構造および、塩基の相補性にもとづくDNAの二重らせん構造について間期の間にDNAが複製され、細胞分裂を通じて均等に分配されることで、細胞分裂の前後で遺伝情報の同一性が保たれることを理解腎臓の働きによって、体液中の塩類などの濃度が保たれている。 無脊椎動物、魚類の体液の濃度調節について。 生体防御について。 免疫のしくみ。 白血球の食作用・抗体の特徴について理解 リンパ球による抗原認識、免疫寛容 獲得免疫は自然免疫によって誘導 排除の流れを理解する。DNAを抽出する	6	DNAの塩基配列がmRNAの塩基配列に写し取られ(転写)、これがアミノ酸配列に置き換えられる(翻訳)流れを理解する。 恒常性と体液の種類である血液、組織液、リンパ液について理解する。 血液の働きと恒常性について理解する。 免疫を担う細胞や器官の種類と働きの概要を理解する。 ・二次応答や拒絶反応が起こるしくみを理解する。 ・自然免疫と獲得免疫の特徴を理解し、お互いに活性化し合って病原体を排除することを理解する。 ・アレルギーや自己免疫病、エイズなど身近な免疫に関する疾患の生じるしくみを理解する。 ・免疫のしくみを用いている予防接種や血清療法 <small>のしくみ</small> 、近年では抗体医薬が用いられていることを理解する。	活動・実験レポート・板書発表・宿題考査の成績を総合して評価
	8	2. 遺伝情報の複製と分配 <u>中間考査</u>		6		
	9	3. 遺伝情報とタンパク質の合成		7		
	10	第3章 生物の体内環境 1. 体液とその働き 2. 体内環境の維持のしくみ 3. 生体防御  <u>期末考査</u>		6		
				6		
				6		
3	11	第4章 バイオームの多様性と分布 1. 植生と遷移	気温と降水量でバイオームが成立している 世界のバイオームの種類と分布 日本のバイオーム分布と垂直分布、各バイオームの特徴的な植物種 ・身近な地域の気温と降水量からバイオームを推定し、野外で調査した植生と一致するかどうか確認する	6	植生は、相親によって森林・草原・荒原に大別されることを理解する。 ・森林には階層構造がみられ、階層によって光環境が異なることを理解する。 ・遷移のモデル・バイオームの概念を理解し、その地域に生育する植物を基盤としたバイオームが成立することを理解する。 ・地球上には、それぞれの場所に適応した植物が生育し、いろいろなバイオームが成立していることを理解する。	活動・実験レポート・板書発表・宿題考査の成績を総合して評価
	12	2. バイオームとその分布		7		
	1	第5章 生態系とその保全 1. 生態系 2. 生態系のバランスと保全  <u>学年末考査</u>		5		
				5		
				5		
				5		
備考	合計			70		評価 テスト

教科名	理科	科目名	科学と人間生活	単位数	2単位
対象学年	第1学年総合調理	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な物事・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。				
学習内容の概要	自然と人間生活とのかかわり及び科学技術が人間生活に果たしてきた役割について、身近な物事・現象に関する観察、実験などを通して理解させ、科学的な見方や考え方を養うとともに、科学に対する興味・関心を高める。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究するとともに、科学的態度を身に付けている。	自然の事物・現象の中に問題を見だし、観察、実験などを行うとともに、事実を分析的・総合的に考察したりして問題を解決し、事実に基づいて科学的に判断することができる。	観察、実験の技能を習得するとともに、自然の事物・現象を科学的に探究する方法を身に付け、それらの過程や結果およびそこから導き出した自らの考えを的確に表現することができる。	観察、実験などを通して自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	
評価方法	・授業への取り組み 板書、発表 意思表示	・テスト ・課題	・観察・実験への取り組み ・実験レポート	・テスト ・課題	
教科書、教材など	啓林館「科学と人間生活」(科人302) 啓林館「サンダイヤル 科学と人間生活の学習ノート」				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4 5 6 7	序章 科学技術の発展 第1部 生命の科学 第1章 生物と光 <u>中間考査</u> 第2章 微生物とその利用 <u>期末考査</u>	科学技術の進歩・発展が人間生活に果たしてきた役割を学ぶ。 植物の育成と光、ヒトの視覚と光、動物の行動と光について学び、生物の活動と光との関係を理解する。 様々な微生物の存在、生態系における微生物のはたらき、微生物と人間生活について学び、微生物が生態系や人間生活とどのようにかかわっているかについて理解する。	3 7 7	植物の生育と光 光合成色素の分離 ヒトの視覚と光 錯視の体験 動物の行動と光 微生物の存在 微生物の観察 生態系における微生物 アルコール発酵 微生物と人間生活	提出課題・小テスト・感想文定期考査の成績を総合して評価
2	8 9 10 11	第2部 物質の科学 第1章 食品と衣料 第2章 材料とその再利用 <u>中間考査</u> 第3部 光や熱の科学 第1章 光の性質とその利用 第2章 熱の性質とその利用 <u>期末考査</u>	食品、衣料、染料、洗剤などについて学び、その性質や利用の仕方について化学の観点から理解する。 プラスチック、金属、セラミックスがそれぞれの材料の特徴を生かして、身の回りの様々なところに利用されていることを学び、物質の種類、性質および用途や、資源の再利用について理解する。 光の性質とその利用、電磁波について学び、どのように利用されているかを学習する。 熱の性質とその利用、エネルギーについて学び、エネルギーの移り変わりなどについて理解する。	8 8 8 8	食品の科学 衣料の科学 セッケンの合成と性質 プラスチック 金属 セラミックス 光とは何か 光の性質 電磁波とその利用 熱とは何か エネルギーの利用	
3	12 1 2	第4部 宇宙や地球の科学 第1章 身近な天体と太陽系における地球(14) 第2章 自然景観と自然災害 終章 これからの科学と人間生活 <u>学年末考査</u>	身近な天体の姿や運行について学び、天体やその運行と人間生活との関係について理解する。 地球の活動と、人間と自然のかかわりを学び、身近な自然景観の成り立ちと自然災害について、地球内部のエネルギーによる変動と関連付けて理解する。	8 8 5	太陽系の中の地球 太陽と人間生活 天体の運行と人間生活 地震による景観と災害 火山の景観と災害 流水の作用によるけいかん災害	
備考	合計			70		評価テスト

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2単位
対象学年	第1学年特准調理	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技術を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、事故の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	1学期…体づくり運動、バドミントンを行なう。 2学期…バスケットボール、ソフトボールを行なう。 3学期…バレーボールを行なう。 各学期で体育理論を行なう。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指す。また、個人生活や社会生活における健康・安全についての課題の解決を目標として考え、判断している。	自己の能力と各種の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的なおこない方を身に付けている。	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付ける。また、個人生活及び社会生活における健康・安全に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。	
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。	
教科書、教材など					
授業形態	2クラス合同				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	体育理論	体育理論	5	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を知る。	
	5	体力測定	基礎体力の測定	5	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。	
	6	体づくり運動	姿勢・方向転換・集合の方法・整列・列の増減・行進	3	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、スムーズに、かつ安全に行動できるようになる。	
	7	球技	体操・補強運動 体ほぐし運動 体育理論	3	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたりして全身をリラックスして伸ばす。	
	8	球技	バドミントン	13	・ラケットの握り方、サービス、ストローク、クリア、ドライブの修得をする。 ・5つの基礎を使い分けながらラリーができる。	
	9	球技	ソフトボール	13	・ボールの握り方、キャッチボール、ゴロ・フライ補球、送球の修得をする。(守備) ・バットの握り方、バッティングの修得をする。(打撃) ・ゲームのなかで(守備)(打撃)の基礎を使い分ける。	
	10	球技	バスケットボール	13	・ドリブル、パス、シュートを修得する。 ・3つの基礎を使い分けながらゲーム展開ができる。	
	11	球技	バレーボール	12	・パス(オーバーハンド・アンダーハン)、サーブ(アンダー・オーバー)、スパイク(助走と踏込み)などの基礎を修得する。 ・ゲーム(ラリーを楽しむ)のなかで3つの基礎を使い分ける。	
	12	球技	バレーボール	12	・パス(オーバーハンド・アンダーハン)、サーブ(アンダー・オーバー)、スパイク(助走と踏込み)などの基礎を修得する。 ・ゲーム(ラリーを楽しむ)のなかで3つの基礎を使い分ける。	
	1	球技	バレーボール	12	・パス(オーバーハンド・アンダーハン)、サーブ(アンダー・オーバー)、スパイク(助走と踏込み)などの基礎を修得する。 ・ゲーム(ラリーを楽しむ)のなかで3つの基礎を使い分ける。	
	2	球技	バレーボール	12	・パス(オーバーハンド・アンダーハン)、サーブ(アンダー・オーバー)、スパイク(助走と踏込み)などの基礎を修得する。 ・ゲーム(ラリーを楽しむ)のなかで3つの基礎を使い分ける。	
3	球技	バレーボール	12	・パス(オーバーハンド・アンダーハン)、サーブ(アンダー・オーバー)、スパイク(助走と踏込み)などの基礎を修得する。 ・ゲーム(ラリーを楽しむ)のなかで3つの基礎を使い分ける。		
3	1	球技	バレーボール	12	・パス(オーバーハンド・アンダーハン)、サーブ(アンダー・オーバー)、スパイク(助走と踏込み)などの基礎を修得する。 ・ゲーム(ラリーを楽しむ)のなかで3つの基礎を使い分ける。	
3	2	球技	バレーボール	12	・パス(オーバーハンド・アンダーハン)、サーブ(アンダー・オーバー)、スパイク(助走と踏込み)などの基礎を修得する。 ・ゲーム(ラリーを楽しむ)のなかで3つの基礎を使い分ける。	
3	3	球技	バレーボール	12	・パス(オーバーハンド・アンダーハン)、サーブ(アンダー・オーバー)、スパイク(助走と踏込み)などの基礎を修得する。 ・ゲーム(ラリーを楽しむ)のなかで3つの基礎を使い分ける。	
備考:			合計	70		

教科名	保健体育		科目名	体育		単位数	3単位	
対象学年	第1学年総合		履修形態	必修		科目コード		
科目の目標	運動の合理的、計画的な実践を通して、知識を深めるとともに技術を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにし、事故の状況に応じて体力の向上を図る能力を育て、公正、協力、責任、参画などにする意欲を高め、健康・安全を確保して、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続する資質や能力を育てる。							
学習内容の概要	1学期…体づくり運動、バドミントンを行なう。 2学期…バスケットボール、ソフトボール、サッカーを行なう。 3学期…バレーボールを行なう。 各学期で体育理論を行なう。							
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		思考・判断		技能・表現		知識・理解	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで積極的に運動しようとする。また、個人生活や社会生活における健康・安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとする。		自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫している。また、個人生活や社会生活における健康・安全について、課題の解決を目指して考え、判断し		自己の能力と各種の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的なおこない方を身に付けている。		生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身に付ける。また、個人生活及び社会生活における健康・安全について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身に付ける。	
評価方法	授業中の取り組みで判断する。		授業中の取り組み、試験にて判断する。		授業中の取り組み、試験にて判断する。		授業中の取り組み、試験にて判断する。	
教科書、教材など								
授業形態	1クラスの授業(女子のみ)							
年間授業計画								
学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)			評価方法
1	4	体育理論	体育理論	6	・運動やスポーツの合理的、計画的な実践や生涯にわたる豊かなスポーツライフを送るために必要な科学知識を知る。			
	5	体力測定	基礎体力の測定	6	・走る、飛ぶ、投げる、柔軟性などを測定する。			
		体づくり運動	姿勢・方向転換・集合の方法・整列・列の増減・行進	3	・集団として行動するときの基本動作の決まりを学習し、スムーズに、かつ安全に行動できるようになる。			
	6	球技	体操・補強運動 体ほぐし運動 体育理論	4	・筋肉を伸ばしながら関節の可動域を大きくしたりして全身をリラックスして伸ばす。			
				4	・ラケットの握り方、サービス、ストローク、クリア、ドライブの修得をする。			
	7	バドミントン	バドミントン	1.7	・5つの基礎を使い分けながらラリーができる。			
				1.7	・ドリブル、パス、シュートを修得する。			
	8	バスケットボール	バスケットボール	1.7	・3つの基礎を使い分けながらゲーム展開ができる。			
				1.7	・ボールの握り方、キャッチボール、ゴロ・フライ補球、送球の修得をする。(守備)			
	9	ソフトボール	ソフトボール	1.7	・バットの握り方、バッティングの修得をする。(打撃)			
1.7				・ゲームのなかで(守備)(打撃)の基礎を使い分ける。				
10	サッカー	サッカー	1.7	・パス、ドリブル、キックを修得する。				
			1.7	・3つの基礎を使い、安定したボール操作と空間を作り出すなどの連携した動きによって攻防を展開する。				
2	11	球技 <u>期末考査</u>	バレーボール	1.7	・パス(オーバーハンド・アンダーハン)、サーブ(アンダー・オーバー)、スパイク(助走と踏込み)などの基礎を修得する。			
					・ゲーム(ラリーを楽しむ)のなかで3つの基礎を使い分ける。			
3	12	<u>学年末考査</u>	バレーボール	1.7				
備考:		合計	105					

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1単位
対象学年	第1学年	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。				
学習内容の概要	現代社会と健康 1学期…健康の考え方、健康の保持増進と疾病の予防 2学期…精神の健康、交通安全 3学期…応急手当				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	健康の保持増進に必要な事柄について関心をもつこと、仲間と協力して資料を集めたり、意見を交換したり、課題について調べたりして意欲的に学習しようとしている。	健康の保持増進に必要な事柄について、自分のこれまでの学習や体験、資料や仲間の意見や考えなどを参考にしたりして、課題の設定や解決の方法を考えて判断できる。		健康を保持増進するためには、適切な生活行動を選択し、実践することや環境を改善していく努力が必要であることを理解する。健康や安全について、課題解決に役立つ知識を身に付けている。	
評価方法	授業中の取り組みで判断する。	授業中の取り組み、試験にて判断する。		授業中の取り組み、試験にて判断する。	
教科書、教材など	・最新高等保健体育・最新高等保健体育ワーク				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	健康の考え方 健康の保持増進と疾病の予防	・健康の考え方と成り立ち ・生活習慣病とその予防	2	・健康の考え方が変化していることを説明できる。健康を成り立たせている要因をあげることができる。 ・生活習慣病の例をあげることができ、なぜ生活習慣病と呼ばれるかについて説明できる。生活習慣病の予防方法を説明できる。 ・健康にとっての食事の意味について説明できる。健康的な食事のポイントをあげることができる。 ・喫煙者やその周囲の人に起こる害を説明できる。喫煙に対する日本や世界の対策の例をあげることができる。 ・飲酒による健康への短期的影響、長期的影響を説明できる。飲酒による健康問題に対する個人や社会環境問題への対策の例を挙げることができる。 ・薬物乱用が心身の健康や社会に与える影響について説明できる。薬物乱用防止のための個人や社会環境への対策の例をあげることができる。 ・性感染症とは何かを説明できる。性感染症、エイズの予防対策について、個人と社会に分けて説明できる。	
				3		
				2		
				2		
	5	・食事と健康	2	・人間の欲求の種類を説明できる。欲求不満に対処するための適応機種の例をあげることができる。 ・心と体の働きが相互に影響しあう関係について例をあげて説明できる。ストレスの心理、社会的要因と物理的要因の例をあげることができる。		
			2			
	6	・喫煙と健康 ・飲酒と健康	2	・若者の交通事故の特徴を説明できる。交通事故の発生に関係する要因を、例をあげて説明できる。 ・運転者に必要な資質と責任を説明できる。安全な交通社会づくりのための対策を、例をあげて説明できる。 ・適切な応急手当の意義を説明できる。傷病者を発見したときに、確認、観察するポイントをあげることができる。 ・日常的なけがの応急手当の手順や方法を説明できる。熱中症の応急手当の手順や方法を説明できる。 ・人工呼吸、胸骨圧迫、AEDによる除細動の原理と意義を説明できる。心肺蘇生法の各手順のポイントをあげることができる。		
			2			
	7	・薬物乱用と健康	3			
			3			
8	精神の健康	・性感染症、エイズとその予防 ・欲求と適応機制 ・心身の相関とストレス	2			
			2			
9	交通安全	・交通事故の現状と要因 ・交通事故を防ぐために	3			
			3			
10	応急手当	・応急手当の意義とその基本 ・日常的な応急手当	3			
			3			
3		・心肺蘇生法の原理とおこないかた	3			
			3			
備考：			合計	35		

教科名	芸術	科目名	音楽 I	単位数	2 単位
対象学年	第 1 学年	履修形態	選択必修	科目コード	
科目の目標	音楽の活動を通して、生涯にわたって音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。				
学習内容の概要	A. 表現 1 歌唱 2 器楽 3 創作 B. 鑑賞 1 鑑賞				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度 音楽の幅広い分野の学習に自ら主体的に取り組む態度が身についている。 音や音楽の美しさや良さを感じ取り、思いや意図を持って表現や鑑賞をすることができる。	芸術的な感受や表現の工夫 音楽を形成している要素の働きによって生み出されている曲想を感じ取り、表現したい音楽のイメージを持ち、思いや意図を持って演奏ができる。	創造的な表現の技能 音楽を形成している要素を知覚し、それらの働きを感受して演奏することができる。 曲種に応じた発声や楽器の音色や奏法の特徴を生かし、音楽表現を工夫して演奏することができる。	鑑賞の能力 音楽の幅広い分野の鑑賞において、声や楽器の音色の特徴とその効果を作る諸要素を知覚するなどして様々な音楽の価値を見いだす鑑賞の能力が身についている。	
評価方法	観察・聴取 学習プリント	観察・聴取 実技試験	観察・聴取 実技試験 学習プリント	課題プリント 学習プリント	
教科書、教材など	MOUSA 1 (教育芸術社)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価 方法		
1	4	正しい発声法を身につけよう (A. 表現・歌唱)	・発声練習 ・リトミック ・校歌	4	・姿勢や呼吸法に気を付けて、楽曲の特徴を感じ取り、イメージを持って歌う	観察 実技試験 学習プリント 観察・聴取、実技試験 学習プリント 観察・聴取、実技試験 学習プリント 観察・聴取		
	5			イタリア歌曲を歌おう (A. 表現・歌唱)	・アヴェマリア ・カーロ ミオ ベン		8	イタリア語の語感を生かして、発音やフレーズの歌い方などを工夫しながら、楽曲にふさわしい表現を追求して独唱する演奏者による表現の特徴とその違いを理解する。
	6						4	・オーケストラについての知識を深める。
	7	オーケストラを知ろう (B. 鑑賞)						
			ボディーパーカッションに挑戦しよう (A. 表現・器楽)	・チェリー (副教材)	4		・音色や奏法の特徴を生かし、表現を工夫してアンサンブルの喜びを味わう。	学習プリント
			表現を工夫してギターを演奏しよう (A. 表現・歌唱)	・サザエさん	8		・ギターの音色や基本的な奏法の特徴を生かし、表現を工夫しながら演奏する。歌い弾きができるようにする。	観察・聴取、実技試験
			鑑賞しよう	モーツァルトについて	4		・作曲家の生涯をたどり、作品の特徴を聴きとる。	学習プリント
			表現を工夫して合唱やアンサンブルをしよう (A. 表現・歌唱)		8		・アンサンブルにおける自分の役割にふさわしい表現方法を探求する。	観察・聴取、学習プリント
			世界の諸民族の音楽に親しもう (B. 鑑賞)	・鑑賞教材「世界の諸民族の音楽」	4		・世界の諸民族の音楽における声や楽器の音色や表現の特徴を捉え、多様な表現による音楽美を感じ取って鑑賞したり表現したりする。	観察・聴取
			三味線に親しもう	・さくら	6		・三味線の音色や基本的な奏法の特徴を生かし、表現を工夫しながら演奏する	観察・聴取、実技試験、学習プリント
			鑑賞しよう 創作に挑戦しよう (A. 表現・創作)	・ベートーベンについて ・五音音階の種類と楽曲の特徴 ・旋律創作の手順と方法	4 8		・作曲家の生涯をたどりながら、作品の特徴を聴きとる。 ・音階を選んで旋律をつくり、それにもう一つの旋律をつくって重ねる。	学習プリント
			混声合唱の響きを味わおう (A. 表現・歌唱)	・ゆめみたものは ・ぼくはぼく	8		・各パートの役割や音の重なり方などを理解して、楽曲にふさわしい表現や響きを追求する。	観察・聴取
備考:			合計	70				



教科名	英語		科目名	コミュニケーション英語Ⅰ	単位数	3単位
対象学年	1年特進		履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を持つことができる。</li> <li>英語を通じて、世界情勢、伝統文化、教育、環境、ボランティア、科学、スポーツ、資源、経済、戦争・平和などの話題に関する情報や考えなどを明確に理解することができる。</li> <li>英語を通じて、世界情勢、伝統文化、教育、環境、ボランティア、科学、スポーツ、資源、経済、戦争・平和などの話題に関する自分の考えや概要などを適切に伝えることができる。</li> <li>言語の使用場面や目的に合わせて、語彙・文法事項を適切に運用することができる。</li> </ul>					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	表現の能力		理解の能力		知識・理解
	コミュニケーションに関心をもち、積極的な態度で聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、の言語活動に参加しているか。	様々な話題に関して、情報や考えなど、相手に伝えようとする事柄を、英語で話したり、書いたりして、適切に表現することができるか。適切に音読することができるか。		様々な話題に関して、情報や考えなど相手が伝えようとする事柄を的確に理解することができるか。		様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。
評価方法	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>小テスト(音読テスト、writingテストなど)</li> <li>定期考査(中間考査、期末考査)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>小テスト(対話テストなど)</li> <li>定期考査(中間考査、期末考査)</li> </ul>		定期考査(中間考査、期末考査)
教科書、教材など	Genius English Communication I Revised (大修館)、学習ノート ユメタン0、1(アルク)					
授業形態	習熟度					

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	L.1A Village of One Hundred	ユメタン音読、単語練習	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>人類が直面する教育格差、富の偏在、環境破壊などについて理解を深め、これらの問題にいかに対応すべきか考える。to不定詞 itの用法</li> <li>中学校の文法事項の復習</li> <li>風呂敷を題材にして日本文化についての理解を深める。</li> <li>関係代名詞、助動詞、受動態</li> <li>社会を変えようとした十代の若者の勇気と行動力について学ぶと同時に教育の重要性について考える。</li> <li>現在完了進行形、過去完了形、動名詞</li> <li>環境破壊の問題を多角的に考え、理解を深める。</li> <li>分詞、助動詞、比較</li> <li>命の尊さ、人生の意味、ボランティアの大切さを考える。</li> <li>原形不定詞、SV0+if節、itの用法</li> <li>意志力を高める鍵となる睡眠に焦点を当て、人間の脳や心理との関係について考える。</li> <li>受動態、関係副詞、助動詞+have+過去分詞</li> <li>スポーツ及び男女差別について</li> <li>過去完了進行形、動名詞の意味上の主語、分詞</li> <li>水不足解消のための科学技術について</li> <li>仮定法過去、関係代名詞、seem to</li> <li>フェアトレードについて</li> <li>分詞構文、未来完了</li> <li>命の尊さと歴史を学ぶ重要性</li> <li>仮定法過去完了、前置詞+関係代名詞</li> </ul>	提出課題 小テスト 定期考査 授業態度等を総合して評価
	5	中学の総復習 <u>中間考査</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文内容理解</li> <li>ワーク</li> <li>本文要約</li> <li>文法事項の確認、練習</li> </ul>	7		
	6	L.2 More Than Just a Piece of	<ul style="list-style-type: none"> <li>本文音読</li> <li>小テスト(文法・単語)</li> <li>意見発表</li> <li>リスニング</li> </ul>	9		
	7	<u>期末考査</u>		1		
	8	L.3 I am Malala	<ul style="list-style-type: none"> <li>ユメタンテスト(各ユニット毎)</li> </ul>	9		
	9	L.4 Borneo's Moment of Truth		9		
	10	L.5 Alex's Lemonade Stand <u>中間考査</u>		9		
	11	L.6 Willpower and speed		9		
	12	L.7 Mother of women's Judo <u>期末考査</u>		9		
	1	L.8 Water Crisis		10		
2	L.9 Coffee and Fair Trade		10			
3	<u>学年末考査</u> L.10 Life in a Jar		10			
備考:	合計		105			

教科名	英語			科目名	コミュニケーション英語 I	単位数	3 単位
対象学年	1 総合・調理		履修形態	必修	科目コード		
科目の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。						
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、言語活動を英語で行う。</li> <li>事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり概要や要点をとらえたりする。</li> <li>説明や物語などを読んで、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。また、聞き手に伝わるように音読する。</li> <li>聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。</li> <li>聞いたり読んだりしたこと学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。</li> </ul>						
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解			
	コミュニケーションに関心をもち、積極的な態度で聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと、その言語活動に参加しているか。	様々な話題に関して、情報や考えなど、相手に伝えようとする事柄を、英語で話したり、書いたりして、適切に表現することができるか。適切に音読することができるか。	様々な話題に関して、情報や考えなど相手に伝えようとする事柄を的確に理解することができるか。	様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。			
評価方法	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	・小テスト (音読テスト、writing テストなど) ・定期考査 (中間考査、期末考査)	・小テスト (対話テストなど) ・定期考査 (中間考査、期末考査)	・定期考査 (中間考査、期末考査)			
教科書、教材など	VISTA English Communication I (三省堂)、VISTA English Communication I work book (三省堂) ユメタンO (アルク)、英文法教室 (桐原書店)						
授業形態	一斉						

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	Get Ready! ①②③ ののちゃんの英文法 L.1 Kerama Blue <u>中間考査</u>	ユメタン音読、単語練習 ・本文内容理解 ・ワークシート ・本文要約 ・文法事項の確認、練習 ・本文音読	1 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>本課に入る前の、中学校における基礎の確認をする。</li> <li>慶良間の海を守るサンゴ礁の役割と、海とそのサンゴ礁を守る島民の努力について考える。</li> <li>日本の魅力を、外からの視点を通して知る。</li> <li>世界無形文化遺産であるメキシコ料理と、その特色ある食文化について知る。</li> <li>近代オリンピックの発祥と理念、過去の競技、またパラリンピックについて知る</li> <li>バオバブが直面している問題を知り、どうしたら保護できるかを考える。</li> <li>初対面の場面でのコミュニケーション活動。</li> <li>文法のまとめ (基本文型 (2) / 不定詞)</li> <li>江戸時代の生活習慣 (歯磨き) について知る。</li> <li>漫画「ののちゃん」を、英語を通して鑑賞する。</li> <li>世界遺産であるマチュ・ピチュとその文化、また複合遺産に指定されている理由について知る。</li> <li>レストランやカフェの場面でのコミュニケーション活動。</li> <li>文法のまとめ (動名詞 / 現在完了形)</li> <li>文をつなぐ語を知る。</li> <li>人間のおこなっていることのどのような面をモタラの話が象徴しているかを考える。</li> <li>「Wings to Fly」の歌を通して、英語の歌詞に親しむ。</li> <li>「ミッフィー」ディック・ブルーナの社会的役割を知る。</li> <li>買い物の場面でのコミュニケーション活動。</li> <li>文法のまとめ (受け身 / 関係代名詞)</li> <li>語句のかたまりを正しく区切れるようにする。</li> <li>辻井伸行さんのインタビューを通して、偉業を達成するためには何が大切かを考える。</li> <li>スポーツを表す語彙に親しむ。</li> <li>自然界からヒントを得て作られたものが私たちの暮らしを便利にしていることを知る。</li> <li>道案内の場面でのコミュニケーション活動。</li> <li>スティーブ・ジョブズのことばや生き方から読み取れるメッセージについて考える。</li> <li>文法のまとめ・名作『星の王子さま』を鑑賞する。</li> </ul>	提出課題 小テスト 定期考査の成績を総合して評価
	5	L.2 Cool Japan <u>中間考査</u>		1 5		
	6	L.3 Mexican Dishes		1 5		
	7	Look and Learn 1 <u>期末考査</u>				
	8	L.4 The Olympics Take a Break! 1 宝の箱をさがそう		9		
	9	L.5 Baobabs in Madagascar ENJOY COMMUNICATION! 1 Nice to Meet You. Look and Learn 2 Reading Skill 1				
	10	L.6 Toothbrushing in Edo <u>中間考査</u>		6		
	11	L.7 Machu Picchu ENJOY COMMUNICATION! 2 Today's Special <u>期末考査</u>				
	12	L.9 Dick Bruna How About This One? Look and Learn 4 Reading Skill 3		1 5		
	1	L.10 Tsujii, the Great Pianist Take a Break! 4				
	2	L.11 Ideas from Nature ENJOY COMMUNICATION! 4 It's on Your Left. L.12 Steve Jobs <u>学年末考査</u>		1 2		
	3	Look and Learn 5 The Little Prince		6		
備考:	合計		105			

教科名	英語	科目名	英語表現 I	単位数	3単位
対象学年	1年特進	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	英語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。				
学習内容の概要	<p>・英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。</p> <p>・英語を通じて、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。</p> <p>ア与えられた話題について即興で話す。イ読み手や目的に応じて簡潔に書く。</p> <p>ウ聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表。</p>				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	知識・理解	
	コミュニケーションに関心をもち、積極的な態度で聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動に参加しているか。	様々な話題に関して、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝えることができるか。	様々な話題に関して、情報や考えなどが相手に伝えようとする事柄を的確に理解することができるか。	様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。	
評価方法	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	・スピーチ、presentation, writingプリントなど ・定期考査	・小テスト(復習テスト) ・定期考査	・定期考査(中間考査、期末考査)の 考査平均点×0.8	
教科書、教材など	New Favorite English Expression I (東京書籍) 総合英語FACTBOOK、English Grammar (桐原書店)				
授業形態	一斉、グループワーク				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
2	4	Bridge Lesson	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ターゲットセンテンスのリスニング・音読</li> <li>・文法練習</li> <li>・練習問題</li> <li>・中学校復習テスト</li> <li>・プレゼンテーション</li> <li>・ショートスピーチ</li> </ul>	3	・品詞・文の要素・句と節・疑問詞と疑問文	提出課題 小テスト 定期考査の成績を総合して評価
	5	Lesson1 Hello, Japan! <u>中間考査</u>		4	・自己紹介 ・文構造 (SV, SVC, SVO)	
	6	Lesson2 A Present for Sophie Lesson 3 What Did You Do? <u>期末考査</u>		4	・歓迎会やプレゼントについて話し合う。 ・文構造 (SV00, SV0C)	
	7	Presentation 1 Lesson4		4	・近況報告 ・時制 (現在形、過去形、現在進行形、過去進行形)	
	8	Let's Go on a Trip		4	・学校生活の様子の写真を見て、写真について英語で説明する。	
	9	Do You Remember? Lesson5 Music Lovers <u>中間考査</u>		3	・これまでの復習、プリント	
	10	Lesson6 What a Day! Lesson7 Different Schools, Different Rules		4	・好きな音楽について・現在完了形、現在完了進行形	
	11	Lesson8 Snail Mail Presentation 2 Lesson9 Plastic Food Sample		4	・出来事を報告・過去完了形、過去完了進行形	
	12	L10 What Is That Gesture? <u>期末考査</u>		4	・学校の規則を説明しよう。助動詞 (can, may, must 他)	
	1	L11 Laughter Brings Happiness Lesson12 A Movie Review		4	・これまでの復習、プリント	
	2	Lesson13 My Brother Eats L. 14 The Future of Robots L. 15 Visit Kuala Lumpur!	4	・今と昔を明確に言い分けよう。・助動詞 (助動詞 have 過去分詞、would/used to)		
	3	L. 16 Our School's Global Footprint L17 Tokyo Skytree L18 New Zealand <u>学年末考査</u>	3	・食堂のメニューをプレゼンしよう。		
	3	L19 If I were Principal L20 Thank you, Everyone	4	・地元の名所を英語で説明し、旅行プランを立てる。		
			4	・日本の文化を紹介しよう。・受け身 (受け身・受け身を使った慣用表現)		
			4	・ジェスチャーについて説明しよう。to 不定詞		
			4	・することしないことを簡潔に発表。・動名詞		
			4	・映画の紹介をしよう。分詞①		
			4	・学校紹介の新聞記事を書こう。分詞②		
			4	・あったらいいなというロボットについて・関係代名詞		
			4	・おすすめの場所について・関係副詞		
		4	・地元の名所を英語で説明し、旅行プランをたて、プレゼンしよう。			
		4	・環境について 関係代名詞、関係副詞			
		4	・世界の名所 比較			
		4	・自分の住んでいるところ 比較			
		4	・理想の学校について 仮定法			
		4	・1年間の感謝 仮定法			
備考:		合計	105			

教科名	英語	科目名	英語会話	単位数	1単位
対象学年	1年総合	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、身近な話題について会話する能力を養う。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の話を聞いて理解するとともに、場面や目的に応じて適切に応答する。</li> <li>関心のあることについて相手に質問したり、相手の質問に答えたりする。</li> <li>聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどを場面や目的に応じて適切に伝える。</li> <li>海外での生活に必要な基本的な表現を使って会話する。</li> <li>リズムやイントネーションなどの英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさなどに注意しながら聞いたり話したりする。</li> <li>繰り返しを求めたり、言い換えたりするときなどに必要となる表現を活用する。</li> <li>ジェスチャーなどの非言語的なコミュニケーション手段の役割を理解し、場面や目的に応じて適切に用いる。</li> </ul>				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	表現の能力	理解の能力	言語や文化についての知識・理解	
	コミュニケーションに関心をもち、積極的な態度で聞くこと、音読すること、話すこと、の言語活動に参加しているか。	様々な話題に関して、情報や考えなどを相手に伝えようとする事柄を、英語で話して適切に表現することができるか。適切に音読することができるか。	相手の発話を正しく聞き取って理解し、設問・問いかけに適切に反応することができるか。	様々な話題についての学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けるとともに、その背景にある文化などを理解しているか。	
評価方法	ペア・ワークやグループ・ワークへの参加状況および問いに対する応答状況	・小テスト（音読テスト、writingテストなど） ・定期考査（中間、期末）	・小テスト（対話テストなど） ・定期考査（中間、期末）	・定期考査（中間、期末）	
教科書、教材など	Hello there English Conversation（東京書籍）				
授業形態	一斉				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	単元	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
4 5 6 7 8 9 10 11 12	4	Unit1 L.1 Nice to Meet You	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本会話の確認と練習</li> <li>会話を発表する</li> <li>本文内容理解</li> <li>文法事項の確認、練習</li> <li>本文音読</li> </ul>	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己紹介をする。</li> <li>be 動詞と一般動詞・短縮形・助動詞 (shall)・文構造</li> </ul>	提出課題 小テスト 定期考査の成績を総合して評価
	5	L.2 Hello, Friends!		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>許可を求める、相手について尋ねる。</li> <li>助動詞 (may)・疑問詞を用いた疑問文・too と either の使い分け</li> </ul>	
	6	L.3 My favorite Music <u>期末考査</u>		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見を言う。</li> <li>What + 名詞を用いた疑問文・存在を表す there is [are] ~ の構文・助動詞 (can)・楽器名の前につく定冠詞</li> <li>平叙文の語順での疑問文</li> </ul>	
	7	L.4 What are you crazy about?		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>興味関心を伝える、誘う、誘いを断る。</li> </ul>	
	8	L.5 A Friendly Potluck		3	<ul style="list-style-type: none"> <li>現在進行形・助動詞 (would / might)・be going to do</li> </ul>	
	9	L.6 Are You All Right?		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>許可を求める、許可する。</li> <li>助動詞 may の用法・主語の省略と命令</li> </ul>	
	10	L.7 Talking about Our Town <u>期末考査</u>		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>mine・否定詞 not を含んだ疑問文 Isn't it ~?</li> </ul>	
	11	L.8 Traditional Culture		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>同情する、事情を理解する、助言する</li> <li>助動詞 should の用法</li> <li>現在進行形 (未来)・命令文</li> </ul>	
	12	L.9 Equal Roles		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>予定を尋ねる・答える、習慣を尋ねる、説明する</li> <li>同格の ( , ) の用法・疑問文における省略</li> <li>未来を表す現在進行形</li> </ul>	
	1	L.10 Helping Each Other <u>学年末考査</u>		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>感想・感情を述べる</li> <li>to 不定詞 + that 節・感嘆文 What a/an ~!</li> <li>否定詞 not を含む疑問文 (復習) Why don't you ~?</li> </ul>	
2		4	<ul style="list-style-type: none"> <li>推測する・主張する</li> <li>動名詞主語・(I guess) buying their products creates ...</li> <li>What is ~ like?</li> </ul>			
3						
備考:		合計	35			

教科名	家庭科	科目名	家庭基礎	単位数	2単位
対象学年	第1学年	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育てる。				
学習内容の概要	(1) 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけるようにする。 (2) 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的に取り組んでいる。	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	
評価方法	・行動の観察(学習活動への参加姿勢や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート)	・行動の観察(学習活動における発言内容や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート)	・行動の観察(学習活動における発言内容や態度) ・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート)	・記述の確認(ノート、プリント、ワークシート) ・定期考査	
教科書、教材など	東京書籍 「家庭基礎」				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	自分らしい人生をつくる	生涯発達の視点 青年期の課題 目標を持っていきる 人生をつくる 家族・家庭を見つめる これからの家庭生活と社会	8	・各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・家族・家庭に関する法律と現在の社会の状況を理解する。 ・家事労働・職業労働について知り、ワークライフバランスを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価
	5					
	6	子どもと共に育つ	子どもの育つ力を知る 親として共に育つ 子どもとの触れ合いから学ぶ これからの保育環境	8	・子どもの生活習慣形成や遊びの意義、食生活・衣生活の特徴を理解する。	
	7	高齢社会を生きる <u>期末考査</u>	高齢期を理解する 高齢者の心身の特徴 これからの高齢社会	8	・高齢者の心身の変化や生活の特徴を理解する。 ・高齢者に関する福祉についてと制度と課題を考える。	
2	8			8	・社会保障制度の理念と内容を学ぶ。	
	9	共に生き、共に支える	私たちの生活と福祉 社会保障の考え方	10		
	10	衣生活をつくる	被服の役割を考える 被服を入手する これからの衣生活 布を用いた生活の知恵	6	・被服の機能を理解し、健康で快適な着装について考える。 ・購入、再利用、破棄などを考慮に入れた衣服の必要性を理解する。	
	11	住生活をつくる	住生活について考える 住生活の計画と選択 これからの住生活	6	・住居の機能や間取りについて理解する。 ・室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を理解する。	
3	12	経済生活を営む <u>期末考査</u>	職業生活を設計する 計画的に使う 国民経済・国際経済と家庭の経済生活 現代の消費社会 消費者の権利と責任 これからの消費生活と環境	6	・国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ・キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。	
	1	生活を設計する	生涯を見通す	6	・目指すライフスタイルを考え、高校卒業の生設計を立てる。	
	2	食生活をつくる <u>学年末考査</u>	食生活の課題について考える 食事と栄養・食品 食生活の安全と衛生 調理の食生活の課題について考える 調理の基礎 これからの食生活	10	・自分自身の食生活を振り返り、問題点を考える。 ・食品の選択や調理の際の安全に関する必要事項を学ぶ。 ・基本的な調理技術を学び、日常食を作れるようになる。 ・生涯を通じて健康で安全な食生活が営めるようになる。	
備考:			合計	70		

教科名	商業	科目名	簿記	単位数	1 単位
対象学年	第1学年総合	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	簿記は英語・コンピュータに次ぐ第3の世界共通語であるといわれています。 コンピュータ化が進み帳簿などもコンピュータが作成してくれるようになり、簿記の知識は必要なくなるという意見もありますが、簿記などを判断する仕事は人間でなければできません。 その第3の世界共通語である簿記の基本を学び3年生の終了時までには検定試験に挑戦できるように対応していきたい。				
学習内容の概要	商業の基礎（商業教育のスタートノート） 検定試験4級範囲（第1編簿記の基礎 ～ 第2編取引の記帳その1：商品売買の取引 まで）				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	単元ごとの確認テスト、定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業をはじめとした教科全体の取り組み姿勢により評価を行う。	定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業の取り組み姿勢により評価を行う。	単元ごとの確認テスト、定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業をはじめとした教科全体の取り組み姿勢により評価を行う。	単元定期考査、問題集を使用した自学の状況、授業の取り組み姿勢により評価を行う。	
評価方法	○単元問題で確認。 ○各自持っている問題集で家庭復習。 ○定期考査				
教科書、教材など	新簿記（実教出版）、反復式学習と検定 簿記問題集全商3級（実教出版）				
授業形態	授 業 形 態				

年 間 授 業 計 画

学期	月	単 元	学 習 内 容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法	
1 学期	4	簿記の基本	企業の簿記 資産・負債・資本 貸借対照表	4	簿記の種類、訂正の仕方など 勘定科目の分類、貸借対照表の作成		
	5						
2 学期	6		収益・費用 損益計算書	6	勘定科目の分類、損益計算書の作成		
	7		取引と勘定		4	簿記上の取引の確認	
	8					取引要素の結合関係	
	9					勘定口座への記入法	
	10					仕訳と転記	
	3 学期		11			6	仕訳帳の記入法 総勘定元帳の記入法
12					9	合計試算表、残高試算表を作成 6けた清算表をたてる。 決算の意味・手続き 4級の模擬試験を実施	
1							
2							
3							
備考：			合計	35			

教科名	家庭科		科目名	公衆衛生		単位数	1単位
対象学年	第1学年調理		履修形態	一斉	科目コード		
科目の目標	健康の保持・増進に寄与する食生活の重要性を認識し、わが国の健康の現状とともに、調理師法、健康増進法及び食育基本法などの健康づくりや食生活の向上に関する法規や関連する対策及び活動について理解することを通して、調理師が果たすべき役割を理科する。						
学習内容の概要	素材に用いる食品の知識を得、栄養と体との関係を理解させ衛生的で安全な調理ポイントを学習し、調理に携わる職人として多岐にわたる見識と教養を身に付けさせる						
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解			
	人々の健康を守る社会の仕組みを理解してその知識を積極的に活用しようとする	人々の健康にとって問題になっていること又、家族を含めた健康管理を把握、認識し、理解する。	事象を考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する。	衛生統計を理解し、感染症における基本的な概念、環境保全全般の知識を得、公衆衛生と身体との関係を理解し、知識を身につけている。			
評価方法	授業態度、発表回数、ノート等の提出状況	文章問題の小テスト、授業中の発表内容	質問内容、レポート提出	中間考査は考査素点、期末考査は考査点を含む総合評価			
教科書、教材など	1 食生活と健康 (社会法人全国調理師養成施設協会)						
授業形態	一斉授業						
年間授業計画							
学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法	
1	4	1 調理師と健康	健康の考え方	10	健康とは何か、わが国の健康水準、目指すべき健康とは	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価	
	5	<u>中間考査</u>					
	6		食と健康の関係		健康的な小生活づくり		
	7	<u>期末考査</u>			調理師の成り立ち 調理師法の概要		
	8		調理師の役割				
	9			15	食生活における調理師の役割		
	10	2 食生活と疾病	疾病の動向とその予防		疾病の動向、疾病の予防		
	11	<u>中間考査</u>					
	12		生活習慣病		生活習慣病とは 生活習慣病の国際比較と生活習慣の重要性 生活習慣病の予防		
	1	3 健康づくり	健康づくり対策	10	疾病予防から健康増進へ 健康増進法		
	2						
	3	<u>学年末考査</u>	1年間のまとめ				
備考：			合計	35			

教科名	家庭科	科目名	食品衛生	単位数	1単位
対象学年	第1学年調理	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	食物は人に対して食中毒等の健康被害をもたらす、場合によっては生命を左右することがあるためこれを認識し理解する				
学習内容の概要	食中毒の原因物質となる病原微生物や寄生虫、化学物質などの性状や毒性を学び、その対処方法や予防方法などと調理師自身の健康管理の重要性を学習し、HACCPの精神を導入するなど「清潔で衛生的な食品の取り扱い」を学び、今日盛んに提唱されている「食の安全・安心」を提唱できる確かな基礎知識が身につくように学習する。				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	食品に由来する微生物の種類、増殖条件や健康危害を理解してその知識を積極的に活用しようとする。	食中毒の基礎知識を理解し、科学的な知識や手法が食品衛生対策上、理解した上で判断力がある。	事象を考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身に付け、よりよく問題を解決する。	食品衛生における基本的な概念、微生物の知識を得、調理師として食中毒予防に努める基礎知識を身に付けている。	
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	授業中の取り組みの状態の観察、考査	
教科書、教材など	食品衛生学（全国調理師養成施設協会）				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	食の安全と衛生 食品と微生物  <u>中間考査</u>	食の安全を守る 安全を脅かす要因 安全確保の仕組み  食品衛生とは  食品中の微生物、腐敗	15	時代を超えて共通する脅威は食中毒であることで細菌やウイルスなどの微生物が占めている事を学び理解させる	観察  考査
	5				WHOの定義による食の安全、食品衛生の概念を学び理解させる	
	6				微生物は細菌、リケッチア、酵母、カビ、ウイルス、原虫などを学び理解させる	
2	9	食品と化学物質 器具、容器包装 の衛生  <u>中間考査</u>	食品添加物、重金属 放射線物質 器具、容器包装 の概要	10	微生物が腐敗にどのように関わるか学び理解させる	観察  考査
	10				添加物の定義やヒ素、重金属、有毒元素や放射性物質がどのように食品に関わり影響するかを学び理解させる	
3	11	健康 危害  <u>学年末考査</u>	健康危害の種類 食中毒の概要	10	飲食により健康が脅かされる原因を学び理解させる	観察  考査
	12					
	1					
備考：			合計	35		

教科名	家庭科		科目名	食品	単位数	1単位
対象学年	第1学年調理	履修形態	一斉	科目コード		
科目の目標	「調理師」を名乗る人には、それだけ重要な社会的使命が与えられていることを理解する。					
学習内容の概要	食品の特性を知り、美味しく安全な食事を提供し、健康の維持増進をはかる。食の安全を確保する。調理技術や調理様式を受け継ぎ、さらに新たな調理法を創造し、文化継承の役割を担う。					
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
	人々の健康を守る社会の仕組みを理解してその知識を積極的に活用しようとする	人々の健康にとって問題になっていること又、家族を含めた健康管理を把握、認識し、理解する。	事象を考察し、表現し処理する仕方や推論の方法を身につけ、よりよく問題を解決する。	衛生統計を理解し、感染症における基本的な概念、環境保全全般の知識を得、公衆衛生と身体との関係を理解し、知識を身につけている。		
評価方法	授業態度、発表回数、ノート等の提出状況	文章問題の小テスト、授業中の発表内容	質問内容、レポート提出	中間考査は考査素点、期末考査は考査点を含む総合評価		
教科書、教材など	2 食品と栄養の特性 (社会法人全国調理師養成施設協会)					
授業形態	一斉授業					

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法	
1	4	食品の特徴と性質	植物性食品とその加工品	10	穀類	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価	
	5						いもおよびでんぷん類 砂糖および甘味類
	6						豆類、種実類、野菜類
	7	<u>期末考査</u>	動物性食品とその加工品	15	果実類、		
	8						きのこ類、藻類
	9						魚介類、食肉類
	10	<u>中間考査</u>	その他の食品	10	卵類、乳類		
	11						油脂類、菓子類、嗜好飲料類、調味料および香辛料類 調理加工食品類
	12						ゲル状食品、特別用途食品、保健機能食品
	1	<u>学年末考査</u>	食品の加工と貯蔵 食品の生産と流通	10	食品の加工、食品の貯蔵 食品の国内生産と輸入 食品の流通		
	2						
	3						
	備考:			合計	35		



教科名	家庭科	科目名	調理(理論)	単位数	2単位
対象学年	第1学年	履修形態	必修	科目コード	
科目の目標	調理師を目指すため、調理師の社会的使命として社会的に重い職業であることを理解させ理論を学習する				
学習内容の概要	食文化継承の役割を担う。技や腕だけでなくおいしさの理由を理論として学び素材に用いる食品の知識を得、栄養と体との関係を理解させ衛生的で安全な調理ポイントを学習し、調理に携わる職人として多岐にわたる見識と教養を身に付けさせる				
科目の評価規準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	調理に関心を持ち、多岐にわたる見識と教養の充実向上を目指して、意欲的に取り組んでいる。	調理について思考を深め、基礎・基本的な知識と技術を活用して、適切に判断し、その結果を的確に表現する。	調理に関する基礎・基本的な技術を身につけ、実健実習を合理的に計画し、創意工夫する能力を身に付けている。	調理に関する基礎・基本的な知識を身につけ、調理師の社会的使命を理解している。	
評価方法	授業中の取り組みの状態の観察 課題の提出など。	授業中の話し合い、発表、 定期考査、小テストなど	実習と理論の関連を評価	定期考査、小テストなどによる評価	
教科書、教材など	調理理論と食文化概論(全国調理師養成施設協会)				
授業形態	一斉授業				

年間授業計画

学期	月	単元	学習内容 (活動・実験・実習等)	時間	単元の目標 (具体的な学習のポイント)	評価方法
1	4	調理とおいしさ	調理とは。 おいしさの構成	15	調理の基礎的な理論として調理の目的を理解する	提出課題・小テスト・感想文・定期考査の成績を総合して評価
	5	<u>中間考査</u>				
2	6	調理の基本操作	非加熱調理操作 計量、洗浄、浸漬	20	非加熱操作、加熱操作などの調理操作の方法と特徴を理解し応用することができる。	
	7	<u>期末考査</u>	切碎、混合、磨砕、成形		非加熱操作の特徴を理解する	
	8		冷却、冷凍、解凍		加熱操作	
	9	加熱調理操作 湿式加熱、乾式加熱		湿式加熱、乾式加熱の違いや特徴について理解する		
	10	<u>中間考査</u>	誘導加熱、誘電加熱		誘電加熱、誘導加熱の違いを理解する	
	11	食品の調理科学	植物性食品 穀類	20	食品の性質と調理による変化をとらえ、調理の要点を理解する 穀類の特徴について理解する	
12	<u>期末考査</u>	いもおよびでんぷん類	15	いもおよびでんぷん類の特徴について理解する		
3	1		砂糖		砂糖の特徴について理解する	
	2	<u>学年末考査</u>	豆類		豆類の特徴について理解する	
	3					
備考:			合計	70		